

房総半島から得られた北限記録のセダカギンボ

京谷蒼馬¹・今 孝悦²

Author & Article Info

¹東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻（東京）

kyo.soma.research@gmail.com (corresponding author)

²東京海洋大学学術研究院海洋環境科学部門（東京）

Received 14 May 2026

Revised 03 June 2026

Accepted 03 June 2026

Published 04 June 2026

DOI 10.34583/ichthy.68.0_1

Soma Kyotani and Koetsu Kon. 2026. First record of Spotted Coral Blenny *Exallias brevis* (Kner, 1868) from the Pacific coast of Chiba Prefecture, central Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 68: 1–4.

Abstract

The Spotted Coral Blenny *Exallias brevis* (Kner, 1868) is widely distributed throughout the Indo-West Pacific and has previously been recorded in Japan from Mie Prefecture southward. In the present study, we report a single specimen of *E. brevis* collected from the Boso Peninsula, Chiba Prefecture, central Japan. This specimen represents the northernmost record of the species. A detailed description of the specimen is provided herein.

セダカギンボ *Exallias brevis* (Kner, 1868) は、セダカギンボ属 *Exallias* Jordan and Evermann, 1905 に属する唯一の種であり、インド・太平洋の熱帯域に広く分布する（目黒, 2013; 目黒・木村, 2014）。本邦においては、鰓孔が大きく、左右の鰓膜が峽部を横断して連続すること、上顎に犬歯を欠くこと、項部皮弁の基底が長いこと、頤に皮弁を1対有すること、背鰭軟条数が12–13であること、臀鰭軟条数が13–14であること、イソギンボ科 Blenniidae Rafinesque, 1810 の他種から識別される（藍澤・土居内, 2013; 目黒, 2013）。

本種は熱帯・亜熱帯域の沿岸から礁縁において、アナサンゴモドキ属 *Millepora* やハナヤサイサンゴ属 *Pocillopora*、ミドリイシ属 *Acropora* などの造礁サンゴの枝間に生息し（益田ほか, 1988; Carlson, 2012）、そのポリプを主食とすることが知られている（Hundt et al., 2014）。このような造礁サンゴ上には様々な分類群の生物が生息しており（例えば, Castro, 1996; 三橋, 2014; Hildebrandt et al., 2025）、その多様性や相互作用を理解する上で、サンゴ

表在性生物相を解明することは重要である。

2025年10月に著者らが房総半島南西岸で調査を行ったところ、1個体のセダカギンボが採集された。これは本種の千葉県における初記録を示すとともに、分布北限を更新するものであるため、生息環境とともに、その標本情報を報告する。

材料と方法

調査は2025年10月31日に、千葉県房総半島南西に位置する海岸においてスキндаイビングにより実施した。調査には手網を用い、サンゴ類を破損させることがないよう行った。得られた標本はクロブオイルで麻酔した後、本村（2009）に従って、標本の生鮮時写真の撮影、固定および保管を行った。標本の計数項目は Rangel et al. (2004)、計測項目は Fukao (1984) に従い、標準体長（standard length）は SL と表記した。計測はノギスを用いて 0.1 mm の精度で行った。色彩は撮影したカラー写真に基づく。標本は横須賀市自然・人文博物館の魚類資料（YCM-P）に寄託した。なお、採集地点において、ミドリイシ属サンゴ類は極めて群数または被度が限られ、愛好家等による採集圧により大きな影響を受けることが予想される。そのため、詳細な採集地点情報は秘匿した。

Exallias brevis (Kner, 1868)

セダカギンボ

(Fig. 1; Table 1)

標本 YCM-P 47412, 1個体, 47.4 mm SL, 房総半島南西岸（千葉県）、水深 3.0 m, 手網, 2025年10月31日, 京谷蒼馬採集。

記載 計数形質および計測値を Table 1 に示した。体は側扁し、前後に細長い。鱗はなく、体高は背鰭第5棘付近で最大となる。頭部背面に正中線皮弁はない。背鰭起部は項部皮弁の直後に位置する。体背縁は背鰭起部から第5背鰭棘条基部にかけてわずかに上昇し、そこから尾柄部にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から肛門にかけ



Fig. 1. *Exallias brevis* (YCM-P 47412, 47.4 mm SL) collected from the Pacific coast of Chiba Prefecture, central Japan, immediately after fixation.

て緩やかに下降し、そこから尾柄部にかけて緩やかに上昇する。口は亜端位で、上顎が下顎より突出する。上顎後端

は眼の中央直下付近に位置する。両顎には切歯状歯が並び、上顎に犬歯状歯はない。上唇は肥厚し、全体に皮弁を有する。下唇から項部皮弁基部にかけて、皮膚が波状を呈する。頤に皮弁を1対有する。吻長は眼径より長い。眼は頭部背縁に位置し、円形。眼上皮弁と鼻皮弁を有し、いずれも分岐する。項部皮弁は基底が長く、基底付近から分岐する。頭部正中線上の開孔数は3で、眼上皮弁の間に位置する。鰓孔は胸鰭基底の上端より上で大きく開孔し、鰓膜は峡部を横断して連続する。前部側線上に鱗状の突起はなく、最後の側線管は背鰭第11棘付近に位置する。背鰭起部は腹鰭基底前端の上方に位置し、背鰭棘条部はそこから臀鰭第1軟条の上方まで伸びる。背鰭軟条部はその後方から尾鰭基部下端直前まで伸びる。背鰭棘条部と背鰭軟条部の境界に明瞭な欠刻を有し、背鰭は第3棘条部で最も高くなる。臀鰭起部は肛門直後に位置し、臀鰭基底後端は背鰭最終軟条直下に達する。背鰭の最終軟条は鱗膜で尾柄と大きく癒合するが、臀鰭の最終軟条は鱗膜で尾柄とわずかに癒合するにとどまる。胸鰭基底は背鰭第4棘直下に位置し、胸鰭後端は肛門を超え、背鰭第1軟条直下に達する。腹鰭起部は腹面の鰓膜の直後に位置し、背鰭起部よりわずかに後方に位置する。尾鰭は三角形で後縁はわずかに丸みを帯び、軟条部は分岐する。

Table 1. Counts and proportional measurements of *Exallias brevis* (YCM-P 47412) from Chiba Prefecture, Japan.

Standard length (mm)	47.4
Counts	
Dorsal fin rays	13
Anal fin rays	14
Pectoral fin rays	15
Measurements (%SL)	
Body depth at anal origin	35.2
Caudal peduncle depth	11.8
Caudal peduncle length	11.0
Predorsal length	30.2
Preanal length	54.9
Anal origin to pelvic insertion	21.3
Dorsal fin base length	85.9
Anal fin base length	44.3
Head length	31.4
Head depth	28.1
Head width	20.7
Postorbital length of head	16.0
Orbit to angle of preopercle	9.9
Upper jaw length	8.9
Snout length	13.5
Interorbital width	7.8
Orbit length	9.9
Suborbital width	8.0
Orbital cirrus length	4.0
Longest dorsal spine length	24.0
Longest dorsal ray length	20.7
Longest anal ray length	17.9
Second anal spine length	4.9
Longest pectoral ray length	29.5
Longest pelvic ray length	19.8

色彩 生鮮時 (Fig. 1) — 虹彩は灰色。頭部、体側および各鰭の地色は明るい灰色、腹部の地色は白色を呈する。頭部、体側および鰭に中心部が黒色の円状斑を多数有する。頭部の円状斑は黒色部が大きく、外縁は黄土色。体側の円状斑は黒色部が小さく、外縁はさえた赤みの黄色。鰭の円状斑は黒色部が大きく、外縁はさえた緑みの黄色を呈

する。鼻皮弁、眼上皮弁および項部皮弁は明るい灰色。胸鰭軟条の上半分は白色で、下半分および尾鰭軟条はさえた緑がかった黄色。

分布 本種は紅海からハワイにかけてのインド・太平洋の熱帯域から広く記録されている (Carlson, 2012; Randall et al., 1993; 藍澤・土居内, 2013)。日本国内ではこれまでに三重県、和歌山県、愛媛県、高知県、鹿児島県本土の太平洋沿岸、大隅諸島(硫黄島、口永良部島、屋久島)、トカラ列島(口之島、中之島、宝島)、奄美群島(奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島)、沖縄諸島(沖縄島、伊江島、瀬底島、渡嘉敷島)、宮古諸島(宮古島、伊良部島)、八重山諸島(与那国島)、伊豆諸島(八丈島)、小笠原諸島(兄島、父島)から報告されていた (Fukao, 1985; 古瀬ほか, 1996; 平田ほか, 1996; 坂井ほか, 2005; Senou et al., 2006; Senou et al., 2007; 坂井ほか, 2009; 渡井ほか, 2009; 高木ほか, 2010; 藍澤・土居内, 2013; 目黒, 2013; Hundt et al., 2014; 目黒・木村, 2014; 佐々木ほか, 2015; 木村ほか, 2017; Motomura and Harazaki, 2017; Koeda and Akita, 2018; Mochida and Motomura, 2018; Nakae et al., 2018; 福田・小寺, 2019; Fujiwara and Motomura, 2020; Motomura and Uehara, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 萩原, 2022; 川間ほか, 2022; 加藤, 2023; 大西, 2025)。本研究により、新たに千葉県(房総半島)から記録された。

生息環境 調査地点は岩礁性海岸であり、海底には砂地と岩盤地形が混在する。造礁サンゴはこの岩盤地形上にわずかに点在していた。個体は水深 3.0 m のミドリイシ属サンゴ類の枝間から採集された。周辺にはソラスズメダイ *Pomacentrus coelestis* Jordan and Starks, 1901 やアカハタ *Epinephelus fasciatus* (Forsskal, 1775) が生息していた。

備考 本標本は、鰓孔が大きく、左右の鰓膜が峽部を挟んで連続する；上顎に犬歯がない；頭部正中線上に皮弁をもたない；背鰭中央部に欠刻を有する；鼻皮弁および眼上皮弁を有し、いずれも分岐する；基底の長い項部皮弁をもつ；頤に 1 対の皮弁をもつ；背鰭棘数は 12；背鰭軟条数は 13；臀鰭棘数は 2；臀鰭軟条数は 14；胸鰭軟条数は 15；尾鰭軟条は分岐するなどの特徴を有していた。これらは藍澤・土居内 (2013)、目黒 (2013)、目黒・木村 (2014) が示したセダカギンボの特徴に一致したため、本種に同定された。

セダカギンボは熱帯・亜熱帯のサンゴ礁を中心に知られており (Carlson, 2012)、これまでの分布北限は三重県二木島町で撮影された水中写真に基づくものであった (大西, 2025)。したがって本研究で得られた標本は、本種の千葉県からの初記録を示すとともに、分布北限を更新するものとなる。

本研究でセダカギンボが得られた千葉県房総半島沿岸は、造礁サンゴの分布北限海域であることが知られており

(Yamano et al., 2011)、近年では、この造礁サンゴを利用する魚類や十脚甲殻類が記録されている (例えば, Yamano et al., 2012; 如月ほか, 2025; 京谷ほか, 2025a, b)。またこれらの論文においては、いずれの種も房総半島をその分布北限または東限とすることが示唆されている。そのため、同海域の造礁サンゴは、サンゴ表在性生物の生息基盤であると同時に、これらの生物の分布拡大における重要な要素であると考えられる。ゆえに今後、同地における造礁サンゴの生育状況および出現生物をモニタリングしていくことが重要である。

房総半島南西岸においては、2020 年以降も最低海面水温が熱帯・亜熱帯性魚類の低温致死限界である 15°C を下回る年が確認されている (瀬能, 2017; 気象庁, 2026)。加えて、近年同海域で熱帯・亜熱帯性魚類を記録した如月ほか (2025) や京谷ほか (2025a) は、それらの種が同海域において越冬できていない可能性を指摘している。これらを踏まえると房総半島南西岸は、同様に熱帯・亜熱帯性魚類であるセダカギンボが数年を通して安定的に越冬できる海水温水準には達していないと推測される。しかし、今後の海洋環境の変化により、同海域における熱帯・亜熱帯性魚類の越冬状況が変遷していく可能性があるため、継続的な調査を実施していく必要がある。

謝 辞

本研究を行うにあたり、東京海洋大学水産生物研究会の皆様には採集調査に同行していただいた。横須賀市自然・人文博物館の中島広喜学芸員には、標本の収蔵にあたってご協力いただいた。査読者および本稿の担当編集者(木村祐貴博士)には、本稿改訂における有益なご助言をいただいた。以上の方々に謹んで感謝申し上げます。

引用文献

- 藍澤正宏・土居内 龍. 2013. イソギンボ科, pp. 1295–1324, 2101–2105. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Carlson, B. A. 2012. Feeding activity by the blenny *Exallias brevis* causes multifocal bleaching in corals: Comment on Zvuloni et al. (2011). *Marine Ecology Progress Series*, 463: 297–299.
- Castro, P. 1996. Eastern Pacific species of *Trapezia* (Crustacea, Brachyura: Trapeziidae), sibling species symbiotic with reef corals. *Bulletin of Marine Science*, 58: 531–554.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, Southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14: 1–73.
- Fukao, R. 1984. Review of Japanese fishes of the genus *Cirripectes* (Blenniidae) with description of a new species. *Japanese Journal of Ichthyology*, 31: 105–121.
- Fukao, R. 1985. An annotated list of blennioid fishes from Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 30: 81–124.
- 福田照雄・小寺昌彦. 2019. 海中展望塔に集まる魚 40年間まとめ. マリンパビリオン特別号, 8: 1–14.

- 古瀬浩史・瀬能 宏・加藤昌一・菊池 健. 1996. 魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録された水中写真に基づく八丈島産魚類目録. 神奈川自然誌資料, 17: 49–62.
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類試料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物館及び相模湾海洋生物研究会収集奄美群島産魚類資料目録. 横須賀市博物館資料集, 46: 1–127.
- Hildebrandt, C. A., C. Y. M. Froehlich, O. S. Klanten and M. Y. L. Wong. 2025. Goby spotting: An updated guide to coral gobies (Genus: *Gobiodon*) in the Indo Pacific Region. *Zootaxa*, 5723: 151–188.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相—行動と生態に関する記述を中心として—. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, 16: 1–177.
- Hundt, P. J., Y. Nakamura and K. Yamaoka. 2014. Diet of combtooth blennies (Blenniidae) in Kochi and Okinawa, Japan. *Ichthyological Research*, 61: 76–82.
- Jeong, B and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116.
- 加藤昌一. 2023. ネイチャーウォッチングガイドブック 改訂新版 海水魚 第6刷. 誠文堂新光社, 東京. 383 pp.
- 川間公達・藤原恭司・是枝侑旺. 2022. セダカギンポ, p. 227. 岩坪 洗樹・伊東正英・山田 守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 如月 迅・成田謙介・和田英敏. 2025. ナンヨウハギの相模湾における分布記録 (スズキ目: ニザダイ科). 神奈川自然誌資料, 46: 49–53.
- 気象庁. 2026. 沿岸域の海面水温情報 相模湾. [URL](#) (25 Apr. 2026)
- Koeda, K and Y. Akita. 2018. Illustrated list of additions to the ichthyofauna of Yonaguni-jima Island, the westernmost island of Japan. *Fauna Ryukyuna*, 41: 1–9.
- 京谷蒼馬・小路川卓征・山下龍之丞・今 孝悦. 2025a. 千葉県沿岸から得られた北限記録のコバンハゼ属魚類 3 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 58: 26–32.
- 京谷蒼馬・山下龍之丞・今 孝悦. 2025b. 千葉県沿岸から得られた北限記録のオオアカホシサンゴガニ (短尾下目: サンゴガニ科). *CANCER*, 34: 57–60.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1988. 改訂版 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 382 pp.
- 目黒昌利. 2013. セダカギンポ, p. 307. 本村浩之・出羽慎一・吉田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 目黒昌利・木村祐貴. 2014. セダカギンポ, p. 474. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 三橋雅子. 2014. 造礁サンゴに棲むカクレエビ類. *みどりいし*, 25: 23–26.
- Mochida, I and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima Island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- Motomura, H and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and fresh water fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- 大西 遼. 2025. 三重県二本島町で撮影された水中写真に基づく北限記録のセダカギンポ. *マリンパピリオン*, 54: 6–7.
- Randall, J. E., J. L. Earle, R. L. Pyle, J. D. Parrish and T. Hayes. 1993. Annotated checklist of the fishes of Midway Atoll, northwestern Hawaiian Islands. *Pacific Science*, 47: 356–400.
- Rangel, C. A., J. L. Gasparini and R. Z. P. Guimarães. 2004. A new species of combtooth blenny *Scartella* Jordan, 1886 (Teleostei: Blenniidae) from Trindade Island, Brazil. *Aqua, Journal of Ichthyology and Aquatic Biology*, 8: 89–96.
- 坂井陽一・門田 立・木寺哲明・相良恒太郎・柴田淳也・清水則雄・武山智博・藤田 治・橋本博明・具島賢二. 2005. トカラ列島北部に位置する口之島, 中之島の浅海魚類相. 広島大学大学院生物圏科学研究科紀要, 44: 1–13.
- 坂井陽一・門田 立・清水則雄・坪井美由紀・山口修平・中口和光・郷 秋雄・増井義也・橋本博明・具島賢二. 2009. トカラ列島口之島, 中之島, 平島, 小宝島における浅海魚類相—2002年–2007年の潜水センサス調査から—. 広島大学大学院生物圏科学研究科紀要, 48: 19–35.
- 佐々木哲朗・瀬能 宏・山田鉄也・内田啓道. 2015. 小笠原諸島鳥島および父島の海産魚類相. *Ogasawara Research*, 41: 13–39.
- 瀬能 宏. 2017. コラム 2 死滅回遊魚—地球温暖化の代弁者?, pp. 106–107. 日本海洋学会 (編) 海の温暖化—変わりゆく海と人間活動の影響—. 朝倉書店, 東京.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74.
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006. Coastal fishes of Ie-jima Island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92.
- 高木基裕・平田智法・平田しおり・中田 親. 2010. えひめ愛南お魚図鑑. 創風社出版, 愛媛. 249 pp.
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 38: 119–132.
- Yamano, H., K. Sugihara, K. Goto, T. Kazama, K. Yokoyama and J. Okuno. 2012. Ranges of obligate coral-dwelling crabs extend northward as their hosts move north. *Coral Reefs*, 31: 663.
- Yamano, H., K. Sugihara and K. Nomura. 2011. Rapid poleward range expansion of tropical reef corals in response to rising sea surface temperatures. *Geophysical Research Letters*, 38: L04601.